

研究結果報告書

近代濟州島における日本人居留民の研究

所属：濟州記録文化研究所

役職：首席研究員

氏名：高 暎子(他1名)

<近代濟州島における日本人居留民の研究>

日本漁民の通漁圏の拡張に伴う 1900 年以前から 1945 年までの日本人の濟州島への移住と居留、50 年間の歴史を研究の対象として、その居留の歴史の背景を明らかにし、今残されているものを記録し、人々が記憶していることを採録することを目的とした。

日本人が濟州島に対して持っていた「宝庫」という認識は、資源豊富という意味ではなく、また開発されてない、未開の地という意味であった。濟州島の日本人居留民の生活と日本に引き揚げた後の生活を追跡調査した結果、濟州島の日本人居留民は山口県、広島県、福岡県、佐賀県出身者が多く、生業はおもに商業であった。濟州島に住んでいるとは言え、日本と変わらない生活、日本の風習を守っていた。日本人小学校の濟州南尋常小学校を中心に 1500 人ほどの日本人コミュニティーを形成していた。日本人居留民にとって濟州島は「宝庫」、「新開地」ではなく、平凡な人々による素朴な生活を営む暮らしの場にすぎなかった。

日本植民地時代の痕跡は日帝清算と近代化遺産保存の流れの間に挟まれてきて、撤去されたものもあれば、保存されたものもある。日本人が残した痕跡に対する評価も変わりつつある。濟州市の日本人居留民地には、そのゆかりを記した標示石を設置するなど今はありのまま受け入れようとする方向に向かっている。居留民が残した生活文化は現在レトロ文化の地方コンテンツへと移りつつある。また、今や寂れていく都心の再生において旧日本人居留民商店街が注目されている。この研究はこれに考証の資料になる。また、濟州の地方近代史は帝国による史実が多く、居留民が記述されることはなかった。この研究で明らかになった記述すべき史実は日本人居留民による地方経済規模の拡大、産業構造の変化、日本の生活文化の地元への影響などである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

題名: 『근대 제주도의 일본인 거류민 연구』 (『近代濟州島における日本人居留民研究』)

著者: 高暎子 金恩希

出版社: 凶書出版 한그루 (<http://onetreebook.com/>)

発行日: 2020年11月予定